





勝ちな彼女は  
怒るとかなり怖く、  
口論で勝てた  
試しがない

ひよんなことから  
彼女とケンカして  
しまった



一人になったら  
すこし頭冷えてきた  
謝ろう…

星菜ちゃん  
ごめんね…

寝室にこもっている  
彼女に声をかける

まだ怒ってる  
だろうな…そう思うと  
自然に小声になった

しかし  
予想に反して…



呆然としていると  
突然彼女が  
尻を突き上げた。  
絶頂する時の癖だ。

あ♡あ♡あ♡  
あ♡あ♡あ♡  
あ♡あ♡あ♡

はじめに下半身が  
ガクンとゆれ、  
少しずつ収束していく。  
その痙攣けいれんの中心が  
膣ちつにあると僕は知っている。  
彼女は深く膣で絶頂せつていしている。  
表面が止まっても  
体奥たいおくの痙攣はしばらく続く。  
それも知っている。

パイプが膣ちつ圧あつに  
押し出されて落ちた。

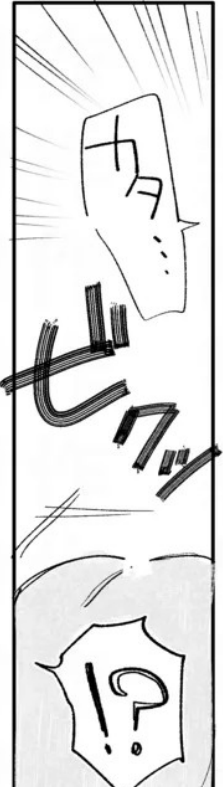
あ♡  
あ♡  
あ♡  
あ♡  
あ♡



遠目でも分かるほど勃起した  
クリトリスが見える。  
うねる膣口は  
ぬらぬらしている。

釘付けになってしまふ。  
と同時に、何故か  
『謝らなきゃ』と強く感じた。

はっ♡  
これす♡  
も♡か♡こ♡す♡  
も♡か♡い♡く♡  
じ♡ま♡た♡



そうだ謝りに来たんだった。  
彼女機嫌きげんを損ねると長いから。  
何故かこのタイミングで  
オナニーに耽り、誘うように  
こっちに性器を向ける。  
挿入しやすそうな角度の  
この子に『謝罪』しよう。  
彼女が真後ろに立つ  
僕に気づいた瞬間、  
いやそれよりも早く…

わっ!?!  
びっくりした  
ちよっと…ツ!!

ごめんね  
仲直りしようね

と眩きながら挿入し、  
すぐに腰を  
打ち付けていた。

やっぴん  
あーん  
あーん  
あーん

あーん  
あーん  
あーん  
あーん

あーん  
あーん  
あーん  
あーん

あーん  
あーん  
あーん

19

ごめんね?  
俺が悪かったね?

ムカついてオナニー  
止まらなかったね?

イツたばかりの膣内は  
パンパンに膨らんでいて  
とてもせまかった。  
それに寝バツクは彼女が  
最も嫌がる体位の一つだ。  
僕は不利な条件でも  
心が伝わるように、  
丁寧に深く、強く  
精一杯ちんぽを動かした。

何度も彼女の体が  
こわばる。

絶頂しているようにも  
見えるが、僕が彼女に  
体を動かすペースを  
与えていないため  
正確には分からない。

やっぱりまだ怒ってる。  
責め立てるみたいに  
締め付けてくるし。

めいめいから♡  
もい♡い♡から♡  
めい♡♡

イケメンが溶けそうな声で  
甘やかしてくるやつで  
ストレス解消したんだね  
いいんだよしようがないよ

いっ♡いっ♡  
いっ♡いっ♡  
いっ♡いっ♡

い♡ま♡や♡め♡ろ♡♡  
い♡た♡ば♡か♡な♡  
い♡か♡ろ♡ろ♡♡

ち♡ち♡♡  
ち♡ち♡♡

いっ♡いっ♡  
いっ♡いっ♡

いっ♡いっ♡  
いっ♡いっ♡

応えるように  
何度も謝り続ける。

もっと早く  
謝ればよかった  
ごめんね?  
ごめんなさい

耳元で謝罪を繰り返す。  
反応が分からないので  
舐めまわしてもみる。

ち♡ち♡♡  
ち♡ち♡♡  
ち♡ち♡♡

めい♡めい♡  
めい♡めい♡

真摯に続けていればきっと  
分かってくれるはずだ。  
彼女の体をしっかりと  
抱きしめつつ  
表情を伺った。

な♡い♡ぞ♡  
や♡ち♡が♡  
ち♡ち♡♡  
ち♡ち♡♡

ごめんなさい  
ごめんなさい

めい♡めい♡  
めい♡めい♡  
めい♡めい♡

めい♡めい♡  
めい♡めい♡

どんな顔を  
しているんだろう...

あ？  
あ？  
あ？  
あ？

あ？  
あ？  
あ？  
あ？

あ？  
あ？  
あ？  
あ？

あ？  
あ？  
あ？  
あ？

あ？  
あ？  
あ？  
あ？

あ？  
あ？  
あ？  
あ？

あ？  
あ？  
あ？  
あ？

思いのほか彼女は  
柔和な表情を浮かべていた。  
嬉しそうにも見える。  
とても不思議な顔だった。

僕は奇妙な胸の高まりを感じていた。  
目の前が赤く染まっていくような感覚だ。  
気持ちいいけど同じくらい不快。  
この気持ちはなんだろう？  
それを深く考える前に絶頂してしまふ。  
彼女の中に出て行ってしまう。

射精をしている瞬間は  
気持ちいいだけになれる。  
できるだけちんぽを彼女の  
子宮口にびっとりくっつけた。  
こうするともっといい。  
でも嬉しそうに彼女を見てると  
また不快感が帰ってくる。

あ？  
あ？  
あ？  
あ？

あ？  
あ？  
あ？  
あ？

あ？  
あ？  
あ？  
あ？



結局よく分からず、  
僕は『謝罪』を続けた。  
彼女も許してくれたのだろう、  
素直で甘い雰囲気を感じる。

このまま仲直り記念の  
セックスに移行しよう。  
媚びるように絡みついてくる肉を  
かき分け何度も射精した。

受け入れてもらえるのは嬉しい。  
怒りっぽくても根はやさしい  
彼女が好きだ。

めんなさい  
めんなさい  
あま〜



すると彼女は  
僕のちんぽの方を選び  
ゆっくり舐めてくれた。

すごく嬉しかったけど  
彼女が抱きしめていた枕が  
濡れていたことも思い出した。  
オナニーしてる時も  
バカみたいに舌をベロベロ  
動かしていたんだろな。



事後。  
パイプとちんぽを  
同時に顔に  
近づけてみた。

そのあとはセックスはやめて、  
彼女が大好きなオナニーを  
「ちんぽで」思う存分  
させてあげた。

これからも  
ケンカしたら  
すぐに謝ろうと思う。

あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡

あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡

あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡

あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡

あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡  
あ♡♡





私の彼氏は優しいけど  
弱気なところがあって  
どうにもイライラ  
してしまう。

ひよんなことから  
彼氏とケンカして  
しまった



一人になったら  
すこし頭冷えてきた

謝ろう…

星菜ちゃん  
ごめんね…

強く言い過ぎたのは  
分かってるけど…  
まだ謝りたくない。

素直になれない自分から  
逃げるみたいにな  
オナニーを始めた。  
気持ちを入れかえたい。

しかし  
予想に反して…

ゴメン…  
ふん…

ハゲ…  
ハゲ…  
ふん…  
ふん…



すぐに大きく  
イってしまった。

思いつきり  
お尻を突き上げて…。

あゝあゝあゝ  
めろろろろろ

てんてん  
ゼンゼン

おまんこが従順に  
なりたいたって  
ヒクついてる。  
誰も見てないのに  
すごく恥ずかしい。  
でも気持ちいい。  
後ろから見られてる妄想をする。  
きつとすごく情けない姿だ。  
頭がとろけちゃいそうだ。

バイブが膣圧に  
押し出されて落ちた。

あゝ  
あゝ  
あゝ  
びびびび

あゝ

さっきまで強気だった  
可愛くない私はもういないの。  
なっさけない私<sup>めすあな</sup>はもういないの。  
挿入されちゃう。それがイラマ。

そんなところを想像して  
めちやくちやに  
舌を突き出して腰をふった。

はっすい  
これすい  
もかこすい  
もかこすい  
もかこすい  
もかこすい

カタ…  
ゼンゼン  
!?

気づけば彼氏が  
そこに立っていた。  
一瞬発情しすぎて幻覚が  
見えたのかと思った。

違う、現実だ。  
一転して恥ずかしさが  
募っていく…。

わっ!!  
びっくりした  
ちよっと…!!



ごめんね  
仲直りしようね

次の瞬間 私は  
彼に犯されていた。

やっぴん  
あーん

あーん  
あーん

あーん

あーん  
あーん

あーん

あーん  
あーん

あーん  
あーん

あーん  
あーん  
あーん

あーん  
あーん

あーん



あー？  
あー？  
あー？  
あー？

あー？  
あー？  
あー？

あー？  
あー？  
あー？

彼はびっくりするくらい  
冷たい顔をしていた。  
すごくゾクゾクした。

私たち二人とも、怒りを性欲に変換してる。  
でも私は彼より弱い。勝てない。  
キャンキャン言っても所詮ザコメスってことだ。  
その事実が気持ちよすぎで、  
私の中に射精するちんぽに必死に媚びた。

あー？  
あー？  
あー？

あー？  
あー？  
あー？

あー？  
あー？  
あー？

私のふざけた謝罪に  
彼のイライラが加速していく。  
手に取るように分かる  
もっと私でイラついてほしい  
全部ぶつけられてブチ負かされたい  
かっこいい雄ちんぽでわからせ交尾して  
首筋の浮きだった血管にキスさせて

あー？  
あー？  
あー？

あー？  
あー？  
あー？

あー？  
あー？  
あー？

あー？  
あー？  
あー？

願い通りに彼は私を犯してくれた。  
深すぎるからってという理由で  
拒否してた寝バック。  
この体位は頭が変になると  
思ってたけど、今思うとそれは  
メスの自覚だったんだ。

もっと早く素直になればよかった。  
上から強い力で支配されるのは  
こんなに気持ちよくて可愛いのに。  
何度も射精する彼がいとおいしい。

この人が好き♡  
好き♡好き♡好き♡  
ごめんなさい♡  
ごめんなさい♡  
ごめんなさい♡

めんなさい♡  
めんなさい♡  
めんなさい♡  
めんなさい♡  
めんなさい♡





私はすぐピンと来て  
ちんぽにむしゃぶりついた。  
あなた様を選んでいきます♥  
あなただけに従順です♥

喉奥まで突っ込まれて  
苦しかったけど、  
とても興奮してしまった。  
オナニー中にも妄想  
していたことだから。

3  
3  
3  
3  
3



事後。  
パイプとちんぽを  
同時に顔に  
近づけられた。

そのあとはセックスはやめて、  
彼の「ちんぼ様で」  
思う存分オナニーを  
させていただいた。

これからは  
ケンカしたら  
すぐに謝ろうと思う。

あ♡あ♡  
かっ♡ト♡あ♡る♡

あ♡ア♡る♡あ♡る♡  
ア♡る♡あ♡る♡

あ♡あ♡

あ♡あ♡

あ♡あ♡

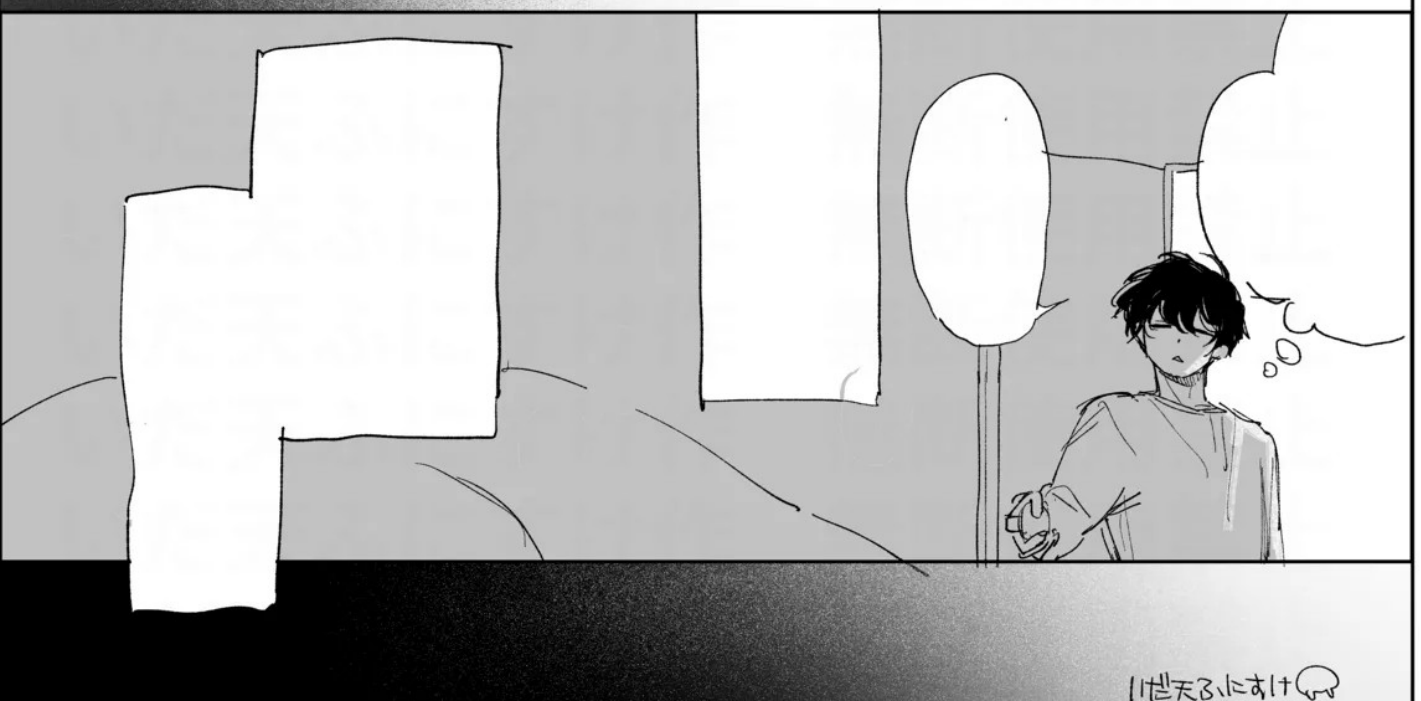
あ♡あ♡

あ♡あ♡

あ♡あ♡

あ♡あ♡



















11世天正にあげ



俺の嫁さんの  
実美ちゃん  
による

約束通り  
ごほうびエツ  
しましうね♡チ

超教育&  
遠隔監修の  
賜物なです!!